

8月2日13時頃に北海道で観測された潮位変動について

2007年8月2日11時37分のサハリン西方沖の地震(M6.4)発生の際に、北海道の留萌や稚内などで潮位変動が観測された(A)。これらは当初、この地震による津波であると考えられていたが、その後の調査結果(以下)から、**気象擾乱の通過に伴い発生した変動である可能性が高い**と考えられる。

- ・地震波の解析などから、津波を起こしやすいタイプの地震(津波地震)ではないと考えられる。
- ・観測された潮位変動は、津波シミュレーション結果(振幅、周期、到達時刻)と明らかな差がある(B)。
- ・この時間帯に発生した気象擾乱(C)による留萌での気圧急変と潮位変動の時刻がほぼ一致しており(D)、また潮位変動の周期も、過去の副振動の周期と一致している。

なお、震源近傍のサハリン南部では0.1~0.2m程度の津波が観測されており(NOAA:国海洋大気庁による)、北海道で観測された潮位変動のごく一部には津波が寄与している可能性もある。

